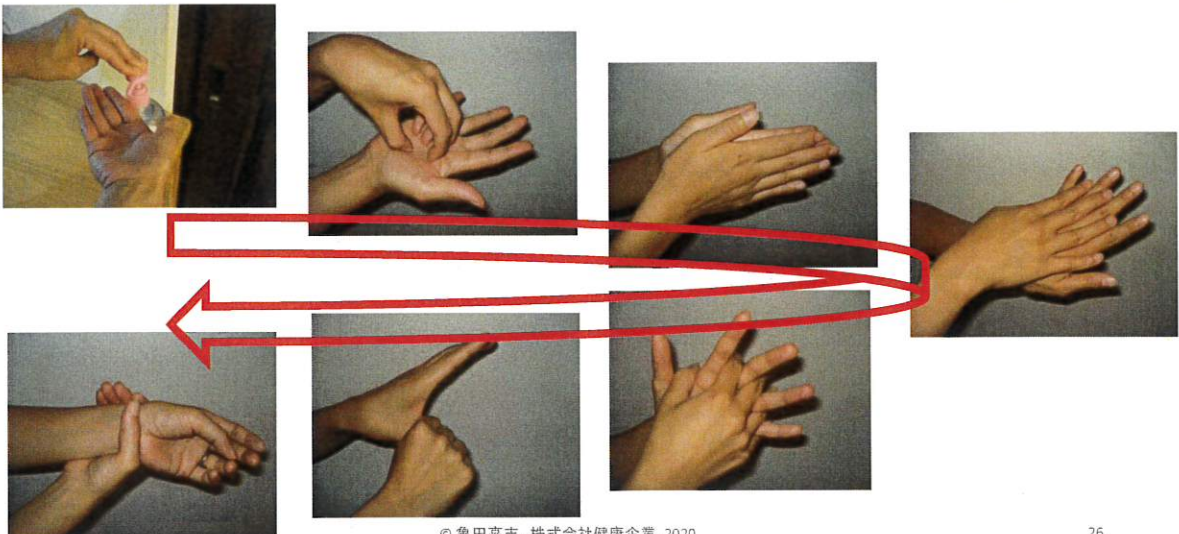


感染を防ぐために できることは？

正しい手洗い(アルコール系消毒剤も)



マスクの着用について

自分が罹った人は他人にうつさないために装着すべき

- 他の人への感染(伝染)予防のため、が原則

医療従事者

患者のケアを行う家族、同僚等

通勤等で人ごみを避けられない場合には、多少の効果？

使用したマスクは適宜、捨てるべき

- 使いまわしは感染のもと！

感染する機会を減らす

- 流行が懸念される状態では不要不急の外出を控える
- 時差勤務、在宅勤務、(安全な)サテライトオフィスの活用
- 同居家族がいる場合の個人ごとの相談
- 職場のイベント等に関する関係者での相談(ただし中止にする必要性は五分五分)
- 対面(対人)サービスの検討
- 通勤手段の検討 等

組織的・設備的対応→入退館管理

- 入館の前にマスクをしていれば廃棄
 - ゴミ箱用意を！
- 手洗い・アルコール消毒をして入館
- 症状のあるものは入館させず、医療機関受診へ
 - 症状がひどければ病院に運ぶなり、重症なら救急車の要請も考慮
 - (稀だと思いますが・・・)
- 食事前には手洗い・アルコール消毒
- 退館の前、手洗い・アルコール消毒をして退出
- 通勤途上でマスクをするなら、マスクを装着
 - 自宅でもマスクを捨てて、手洗い・アルコール消毒

© 亀田高志, 株式会社健康企業, 2020

29

29

3. 具体的な相談に対する助言

社員が罹った場合に できることは？

© 亀田高志, 株式会社健康企業, 2020

30

30

もしも、症状を感じたら出勤しない

- かかりつけ医への相談
- 咳エチケット(自身が感染・発病した場合)
 - 咳やくしゃみをするときは、周囲の人からなるべく離れる。
 - 他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆う。
- 咳やくしゃみを抑えた手を洗う。
- マスクを着用する。

症状が出た人のトイレ使用について

- 消化器症状の可能性？
- もしも、便器・便座(特にシャワートイレ)を利用した場合には、接触感染・糞口感染のもとになるので、どうしても使用が避けられないのであれば、シャワー機能を止めて、その便器・便座を消毒するか、消毒が完了するまでその使用を停止する。

自身と家族が発病等した場合の準備

- 食料・水・日用品・常備薬の確保・備蓄
 - 発病した際の準備を勧める
 - 1週間分が目安
- 注意を促す・検討すべき事項
 - 1人暮らし、単身赴任の場合
 - 家族が順番に発病する場合
 - ご近所との関係→噂～評判？

流行による影響を防ぐために できることは？

持病のある人は主治医・産業医に相談を！

- 高血圧、糖尿病、呼吸器疾患、免疫の問題等
- その他、妊娠中の方も！
- 相談事項
 - 症状が出た場合の対応
 - 処方薬の確保
 - 万が一、多数の患者で機能しない際の対応

代替要員・手段等の検討

- 一人ないし複数の従業員の病欠の場合
- 事業部・部・課のレベルの場合
- 取引先・サプライヤー・流通関係との調整
- 事業継続計画の検証・テスト 等

従業員の反応が鈍い場合

- 自身や家族が感染、発病することはないと思っている。
 - 中国での流行は終息しつつあると考えている。
 - マスコミや専門家が騒ぎすぎたと思っている。
 - 症状が軽い場合は普通の風邪と同じだと考えている。
 - 食料や水、日用品の備蓄は必要でないと考えている。
-
- 対応の目的・目標と行動の徹底を図る

企業や団体全体での 取り組みで大切なことは？

(リスク)コミュニケーションの準備

- 早期に従業員に感染者が特定されたら、どうするか？
 - マスコミ
 - 行政機関
 - 関連団体
 - 取引先
 - 従業員 等
- 「誰が、どのように、何を？」伝えるのか、を予め想定

事業継続計画(BCP)では、空間的・時間的濃淡を意識すること

- チェックポイント1: 正しい情報を入手する。
 - チェックポイント2: 社内の準備を整える。
 - チェックポイント3: 職場での人同士の接触を最小に
 - チェックポイント4: 個人の感染予防対策
 - チェックポイント5: 感染・発病した従業員への支援
- ILO ガイドラインからの邦訳・抜粋 “Protecting Your Employees and Business from Pandemic Human Influenza Action manual for small and medium-sized enterprises” より